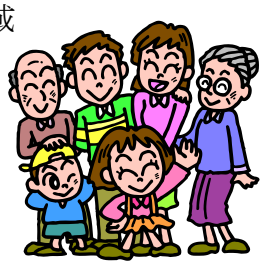
良城小 URL：http//www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ryojo-e/

良　城　小　学　校
学校だより３月号
児童数８２４名
平成 30 年 2 月 23 日

「ながら見守りで、地域みんながもう一度顔見知りに」

校長　増　野　淳　一



先日、吉敷地区セーフティネット協議会があり、「子ども・高齢者・地域の見守りをどう活性化していくか」というテーマで協議を行いました。

その中で、私は日頃から考えている学校を核とした地域づくりについて、お話をしました。

地域とともにある学校づくりを進める本校として、この度のような吉敷の地域づくりを考える場合には、是非とも学校教育と一体となった取組を進めていただきたいと強く考えています。

子どもや高齢者の見守りに限らず、地域活動停滞の根底には、今は昔と違って「近所の人々の顔も知らない状況」があるのではないかと感じています。私は、数年前、自分の住む団地の防災委員を務めたときに、団地内の高齢者の方々の健康状況が全く分かっていませんでした。子どもが小さい頃は、子ども会や地域体育行事等のつながりがあり、ほぼ皆さんの家族構成等も知っていました。しかし、その後、団地内に子どもがいなくなるにつれ急激につながりが薄れ、あっという間におじいちゃん達が元気なのかどうかもよく分からなくなっていました。

吉敷地区も同じような状況ではないでしょうか。

私は、そのような状況だからこそ、地域活動の活性化のためには、まず、かつてのような「顔見知り」の復活が大切なのではないかと思います。子ども、大人（保護者世代～高齢者）みんなが、近所の皆さんの顔を知るつきあいが復活したら、見守り隊を立ち上げなくても、吉敷は安心して暮らせる地域になるのではないでしょうか。

では、どのようにすれば近所のみんながもう一度顔見知りになれるのか。できるだけ気軽にできる方法は？　私は、これこそ学校・子どもの出番、役割だと思っています。

今、学校では、特に放課後、下校時の子どもの安全に課題があります。登校時は、比較的まとまって登校しますが、下校時はばらばらです。１年生だけが下校する曜日もあります。下校時にいじめが起きることもよくあります。現在、下校時は大人の目が足りていません。

私は、子どもが下校する時刻に、地域をあげて「ながら見守り」をするという取組を提案しました。ながら見守りとは、ある場所にずっと立って、旗を持って見守り活動をするのではなく、散歩をしながら、庭先で水まきをしながら、草引きをしながら、たばこをふかしながら、体操をしながら、買い物をしながら、子どもを見たら、「お帰り」「気をつけてね。」と言葉をかけていただく見守りです。

子どもの下校時間になると、家に閉じこもっていた高齢者も庭先に出て、子どもに声をかける。それがきっかけとなり、近所の方々とももう一度、顔見知りになって言葉がけが増えてくる。吉敷ではなぜか夕方になると、やたらと人が外にあふれている。そんな地域になったとき、「〇〇ちゃん、おかえり。今日も元気だね。」「〇〇おじいちゃん、ありがとう。また明日ね。」というような声が地域にあふれてくるのではないでしょうか。そして、高齢者の方々への温かい言葉がけもまた増えてくるのではないでしょうか。

この様に、学校、子どもと地域が関わる取組の可能性は非常に拡がると思います。ながら見守りだけではありません。保護者以外の地域の方々にも、学校にもっとたくさん来ていただいて、子どもと顔見知りになっていただく取組も進めていきたいと考えています。

まずは、吉敷だからこそのながら見守りを地域の活動として進めてはいかがでしょうか。